

平成29年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の多様な進路希望を実現するための相応な学力養成	① 教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 各学年 進路指導課	昨年度は、7月進研模試と1月進研模試を比較。1年生は英語4→16、数学6→26、国語17→20と3教科すべてで偏差値60以上人数が増加。2年生は英語9→16、数学25→13、国語20→12と推移した。	【成果指標】 1・2年の1月模試で、英数国総合の偏差値60以上が10%、55以上が20%、50以上が50%を目指す。 (学年毎)	各学年で10%、20%、50%の基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:すべて達成できなかった	C以下の場合学年会、教科で指導体制を再検討する。	
	② 進路実現可能な学力を身につけるために自立的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学年+1時間の学習時間を推奨している。1,2年ともに学習時間増加への取組意志は高い。	【成果指標】 予習・復習を習慣化させ、家庭学習を充実させる。 (学年毎)	アンケートで予習復習を行っているかを調査し、肯定的な回答が、 A:70%以上 B:50%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合学年会・教科で指導体制を再検討する	隔月1回、家庭学習時間の調査を行う。
	③ 幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	自然科学・判断推理・数的推理など個別の分野で弱点を持つ生徒が多く見られるので、個々人の弱点を克服させながら学力の底上げを図る必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験において総合判定でBランク以上の生徒の割合を指標とする。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	C以下の場合進路及び、各教科で取組を再検討する	
	④ 校内研修や互見授業の成果を教育活動全体に還元し、教員の授業力を高める。	各教科 教務課 進路指導課	互見授業の普及が充分とはいえ、必要性は実感できても実践につなげる意識がまだまだ低い。	【成果指標】 教員の授業力向上を目指す取組の効果を、生徒による授業評価で評価する。	生徒による授業評価で、教員は授業において深く思考させる場面を増やし、学習意欲を高める工夫をしているとの回答が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満	C以下の場合各教科で指導法を再検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成判断基準	判定基準	備 考
2 生徒の人間関係力の向上と生活習慣・学習習慣の定着	①	生徒指導課 全職員	携帯電話等に伴う課題が多く、SNS利用5ヶ条を知らない生徒もいるので、使用ルールをきちんと守る習慣を身につけさせたい。 また、携帯・スマホ使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が50分であった。生徒会執行部が中心となり、学校行事は充実したものとなっている。しかし、各種委員会や生徒一人一人の関わりがまだまだ弱く、生徒全体で十分な意見を交わし、取り組む余地がある。今年度は30分以内を目標にしたい。	【成果指標】 ①十分な意見交換 ②組織的な取組 ①使用ルールの遵守 自己評価により、達成できたかをみる。 ②使用時間 使用時間の調査から達成できたか状況を見る。	①生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 ②生徒の使用時間調査から1人あたりの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	C以下の場合は、指導を見直す。	①年3回(7月・12月・3月)の2回(9月・1月)アンケートを実施する。 ②年5回の調査を実施する。
	②	生徒指導課 全職員	継続した取組携帯電話等により年々理由のない遅刻数伴う課題が減り、授業時のベル着・ベルスタート多く、SNS利用5ヶ条を知らない生徒も確実に定着している。 学校生活のあらゆる場面で時間をのぞ、使用ルールをきちんと守る習慣を身につけさせたい。 また、携帯・スマホ使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が60分以上であった。今年度は30分以内を目標にしたい。 更に高いレベルで定着させたい。	【成果指標】 毎週①使用ルールの遅刻集計結果を生徒玄関遵守 自己評価に揭示しより、達成状況できたかをみる。 ②使用時間 使用時間の調査から達成できたかをみる。	「遅刻0の日」が年間合計で ①生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A：160日85%以上 B：150日70%以上 C：140日60%以上 D：140日60%未満 ②生徒の使用時間調査から1人あたりの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	C以下の場合は、指導を見直す。	生活委員が毎週末に遅刻集計 ①年3回(7月・12月・3月)のアンケートを行い、結果を揭示実施する。 ②年5回の調査を実施する。
	③	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装で指導を受ける生徒は、減少しているが十分とは言えない。 また、一部の生徒で交通マナー、自転車の二人乗りで指導を受ける生徒	【成果指標】 自己評価毎週の遅刻集計結果を生徒玄関により揭示し、達成状況を見る。	生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が 「遅刻0の日」が年間合計で A:85%160日以上 B:70%150日以上	C以下の場合は、指導を見直す。	年3回(7月・12月・3月)アンケート生活委員が毎週末に遅刻集計を実施し、

			目指し、「遅刻0運動」を継続する。		がいる。継続した取組により年々理由のない遅刻数が減り、授業時のベル着・ベルスタートも確実に定着している。 学校生活のあらゆる場面で時間をきちんと守る習慣を更に高いレベルで定着させたい。		C:60%140日以上 D:60%140日未満		結果を掲示する。
	④	HR活動や委員会活動をとおして、集団づくりや人間関係づくりを進め人間関係形成能力を育てる。挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装で指導を受ける生徒は、減少しているが十分とは言えない。	【成果指標】 ①挨拶運動による人間関係力の向上 ②集団生活における規律の遵守 自己評価により、達成状況を見る。	生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は、指導を見直す。	年3回(7月・12月・3月)アンケートを実施する	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	① 進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	3学年 進路指導課	国公立大学65名、私立大学14名、短大専門学校14名、公務員11名、民間就職5名の希望者がいる(普通科)。	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、進学希望者の A:80%以上が進路希望を実現した。 B:60%以上が進路希望を実現した。 C:50%以上が進路希望を実現した。 D:50%未満が進路希望を実現した。 公務員希望者の A:70%以上が進路希望を実現した。 B:60%以上が進路希望を実現した。 C:50%以上が進路希望を実現した。 D:50%未満が進路希望を実現した	C以下の場合には指導体制の見直しを行う。	進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)

	② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させ、ミスマッチのない進路選択をさせる。 (総合学科)	3学年 進路指導課	私立大学3名、短大・専門学校10名、公務員5名、就職21名の希望者がいる(総合学科)。	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、 進学希望者の A:90%以上が進路希望を実現した。 B:70%以上が進路希望を実現した。 C:60%以上が進路希望を実現した。 D:60%未満が進路希望を実現した。 公務員希望者の A:50%以上が進路希望を実現した。 B:40%以上が進路希望を実現した。 C:30%以上が進路希望を実現した。 D:30%未満が進路希望を実現した。 就職希望者の内定が A:12月までに100%を得た。 B:1月に100%を得た。 C:2月に100%を得た。 D:3月以降にずれ込んでしまった。	C以下の場合 は指導方法の 見直しを行う。	個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる(総合学科)
--	---	--------------	---	-----------------------------	---	-----------------------------	----------------------------------

No. 4

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動と相乗効果を生み出す教育の推進	③ 地元に着目し、地域産業と連携し、地域を支えるリーダー的気質を有した人材を育成し、地域の方々との人間関係力を身に付けさせる。	商業科	これまで地域学I等で、地域の方々や生徒が関わり、体験的行事を行ってきた。また、年に数回、特定の行事の中で販売実習を行ってきた。	【成果指標】 生徒による自己評価により達成状況を見る。	事後アンケートにおいて、地域の方々との人間関係力が身に付いたと実感できた生徒が、 A:80%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	

	④	学習意欲喚起のための方策として、各種検定・資格取得を推進する。	商業科	昨年度の合格率は全体で45.2%だった。 簿記検定 40/147 (27.2%) 情報処理検定23/143 (16.1%) 珠算・電卓検定 187/288(64.9%) ビジネス文書検定 176/334 (52.7%) 商業経済検定 13/37(35.1%) 英語検定 65/166(39.2%) の結果である。	【成果指標】 1年間での資格取得率の結果と、生徒の取組状況をみる。	学年及び系列の目標とする各種検定資格に対する取得率が A:75%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 ※(合格者数) / (受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲喚起の方策を見直す。	検定合格状況を調査する。
	⑤	普通科・総合学科の生徒が互いの活動を認め合い切磋琢磨し、学校を活性化する。	教務 総務 生徒会	履修する教科・科目の特性上、学習内容や取り組む方法は異なる(「ゆめかな」の活動や進学模擬テスト・課題研究や地域学、資格検定など)が、それぞれ相互に高め合っている意識に気づく場面が少ない。	【成果指標】 普通科・総合学科それぞれの活動を理解し高め合う場面を設定し、自己評価により意識状況をみる。	生徒の意識調査アンケートから両学科の生徒が相互に高め合っている割合が A : 160日80%以上 B : 150日70%以上 C : 140日60%以上 D : 140日60%未満	C以下の場合 は取組を見直す。	生活委員が毎週末に遅刻集計年2回(9月・2月)のアンケートを行い、結果を掲示実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	
4 地域の教育力を活かした教育活動を展開し、地域と連携した学校づくりの推進	①	本校が実践する教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域の理解を深める。	総務課 教務課	学校HPや飯高タイムズ等を中心とした本校の情報発信に対してはある程度の肯定評価を頂いているが、まだまだ十分とは言えない。	【成果指標】 本校の教育活動や学校行事に関する広報活動の実践と取組に対する保護者及び地域代表の評価	学校HPの更新が A : 週1回以上 B : 2週間に1回以上 C : 3週間に1回以上 D : 月に1回できた。 保護者及び地域代表者に対するアンケートの回答が A : 広報活動を十分に行っている。 B : まあまあ行っている。 C : あまり行っていない。 D : 全く行っていない。	C以下の場合 は取組を見直す。	積極的にマスコミを活用した広報を展開する。
	②	ゆめかなプロジェクトを	教務課	校外との連携を取り入れた活動	【成果指標】	校外の方との交渉機会やプレゼンの機	C以下の場合	

			通して、公共施設や地域企業などを含む地域との連携を積極的に進め、交渉能力や発信力を高める。		を実施してはいたが、まだまだ十分とは言えない。	校外の方に対して、計画を実行に移すための連携や交渉、プレゼンを行うことができた。	会、施設見学などの連携を通じた課題研究活動を行ったグループが、 A：75%以上、B：60%以上 C：45%以上、D：30%未満	は取組を見直す。	
	③	理科	地元の小学校高学年・中学校を対象に、理科実験授業を年に1回行い、理科に関する興味・関心を高める。		昨年度は、中学校を対象に、理科実験授業を1回行った。	【成果指標】 小・中学生が楽しく授業に取り組み、理科に対する興味・関心を引き出すことができた。	実験内容に興味を持ち、自ら理解を深めるための考察や追加実験をしたいと回答する児童・生徒の割合が A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:70%未満		
	④	総務課 PTA係	保護者懇談会への参加を含め、積極的な学校行事への参加を推奨する。		行事への保護者の参加に偏りがあるなど、保護者の学校に対する意識に濃淡が認められる。	【成果指標】 保護者懇談会への参加を含めた学校行事への参加回数	会員数379名のうち、保護者懇談会への参加を含め、学校行事への参加回数が3回以上の割合が A:90%(342人)以上 B:70%(266人)以上 C:50%(190人)以上 D:50%未満	C以下の場合 は案内の方法を見直す。	
	⑤	総合学科	地域のさまざまな立場の方々に講師を依頼し、平時の授業(地域学Ⅰ、地域学Ⅱ、産業社会と人間など)を協同して創り上げる。		地域学Ⅰで地域の方々と生徒が関わり合ってきた。また、年に数回、特定の行事の中で、地域の方に講演を行っていただいた。	【成果指標】 地域の方々を講師として、授業(フィールドワークを含む)をおこなった時間数	地域の方々を講師として授業をおこなった時間数が、 A:50時間以上 B:40時間以上 C:30時間以上 D:30時間未満	C以下の場合 は実施方法を再考する。	地域のさまざまな立場の方々に講師を依頼し、平時の授業(地域学Ⅰ、地域学Ⅱ、産業社会と人間など)を協同して創り上げる。